

ふれあいの里 グループホームすつつ
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192100048		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームすつつ		
所在地	北海道寿都郡寿都町字新栄町166番地8		
自己評価作成日	平成28年1月28日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0192100048-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寿都湾が眼下に見える自然豊かな閑静な環境の中に位置しています。利用者様が住み慣れた地域で楽しみを持ち生活が送れるよう、地域行事への参加、馴染みの方とふれ合いを持ち保育園園児やカラオケ愛好会の皆さんの訪問など、地域の方との交流が図れるよう支援しています。協力医療機関による定期的な訪問看護を受け、相談、助言を頂き早期受診対応や、24時間連絡できる体制を取り連携を図っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

寿都町の中心部にある地域密着センター「ふれあー寿」の中にある、1ユニットのグループホームである。元の道立病院の建物を改築して設立され、1階がグループホームと小規模多機能事業所、社会福祉協議会などが入居し、2階は高齢者住宅となっている。玄関からグループホーム入口の途中に広い共生ホールがあり、町民も気軽に利用できるため、利用者と町民の交流の場となっている。ホームは共用空間が広く清潔で、温度や明るさが適切に調整されている。また、利用者が楽しめるよう、遊び道具を数多く用意し、大きな貼り絵などの作品を飾り、居心地のよい雰囲気としている。共生ホールから子供達や町民の声が聞こえ、地域との一体感を感じることができる。施設の特徴から地域住民との交流を行いやすく、利用者の知人が気軽に来訪したり、隣接する小規模多機能事業所とも交流がしやすくなっている。職員は理念をよく理解して利用者一人ひとりに優しく接しており、介護計画の作成や日々の記録も適切に行われている。法人の支援のもと、年間を通した研修や各種の書式も整っている。医療面では、月1回の定期受診の体制が整い、協力医が利用者の健康状態を全般的に把握している。入浴支援の面では、清潔な浴室を保ち、利用者が湯船に入りやすいよう、手作りの台を使った入浴の支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが提供出来できているか、職員間で振り返り実践できるよう努めています。	2項目からなる事業所独自の理念があり、その中に「住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気のもと生活する」という内容を掲げ、地域密着型サービスを意識した理念として確立している。理念を玄関入口に掲示し、ミーティング等で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他事業所とふれあ～寿祭りの開催、保育所園児の訪問、運動会見学や、町内行事に参加し地域住民の方と交流を図っています。	建物内の共生ホールに地域の方が常に訪れ、交流している。町のお祭りや敬老会に、利用者と一緒に参加している。保育所の園児とも交流ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての取り組みは、十分と言い難い現状にあり、これから重点的に取り組んで行きたいと考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告等、意見や要望を伺いサービス向上に活かせるよう取り組んでいます。遠方の家族様が殆んどで、議事録や、個別にホーム便りの送付を行っています。	会議は2ヵ月毎に開催され、町や地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員などの参加を得ているが、家族の参加は得られていない。運営報告や外部評価、行事などのテーマで意見交換しており、議事録を家族に送付している。	会議のテーマを計画的に設定し、より活発な意見交換の場となることを期待したい。また、家族の参加を促すとともに、参加が難しい場合は事前にテーマに関する意見を収集するなどの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様や運営等の相談をさせて頂き、助言、指導を頂きサービスの質向上に努めています。	運営推進会議に町担当者や地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、管理者は各種の手続きや一部の利用者の金銭管理などで頻繁に役所を訪れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人職員研修を実施しています。身体拘束をしないケアを実践しています。安全を守るための行為が拘束に接触していないか都度職員間で話し合いをしています。	身体拘束の禁止の対象となる具体的行為を記したマニュアルが用意され、年に1回程度勉強会を行っている。共生ホールに続く自動ドアは日中は自由に出入りができ、出入りがあれば鈴の音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で不適切なケアがなされていないか、都度職員間で注意しあい、意識を持ち防止に努めています。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	寿都町社会福祉協議会の自立支援事業や成年後見制度を利用されている方がおり活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や質問事項について分かりやすい説明に努めている。契約時だけで分からないことはいつでも質問して頂けるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族様に状況を伝え、意見、要望を伺っていますが、不足な面もあり要望等話が聞けるよう雰囲気作りに努め貴重な意見を頂けるよう取り組んでいます。	町内に住む家族が2名と少なく、全体的に来訪は少ない。家族から意見があれば申し送りノートで共有している。2ヵ月毎にすつつ通信を作成し、個人ごとの手書きも書いて家族に提供している。	遠方の家族が多く意見収集が難しいため、定期的なアンケート実施などの検討を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、業務の中で利用者の状況や業務内容などについて、意見、提案を聞き、改善点を話し合い運営に反映するよう努めています。	2ヵ月に1度の全体会議と随時のミニカンファレンスで職員同士、活発に意見交換している。管理者は職員と随時の面談を実施している。職員は、行事や通信作成、レク活動、創作活動などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士所持者で勤続3年以上の職員を対象に面談で正社員への登用を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が役割を持つことで、やりがいや意識向上につながるよう取り組んでいる。法人で経験年数別研修、目的別研修を年間で計画し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ連絡会に参加し、居宅介護支援事業所、診療所、包括支援センター職員との事例検討、地域の高齢者等の情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様、関係機関担当者と一緒に面談し、困りごとや不安なことを聞き安心感を持って利用して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安なこと、要望等に耳を傾け安心して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の関係機関からの情報を踏まえ、必要な支援を家族様、本人様と考え相談できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを職員間で情報共有し、出来ることで達成感が得られるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、電話等で生活の様子を伝え、相談するとともに、ご家族の要望を伺いながら、毎日のケアに取り入れている。又遠方の方には、来町時外出の機会を持って頂くようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	楽しみにしている親戚宅へ外出、外泊を継続できるよう支援している。又併設の小規模ホームへ通いで来ている友人と定期的に交流できるよう支援をしています。	半数ほどの利用者に対して知人や友人が頻繁に来訪している。共生ホールの行事でも知人と交流したり、同一建物の小規模多機能施設を利用する知人とも交流ができる。希望に応じて、美容室や雑貨店などへの外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、創作活動の時間をもち、皆で一つのことをやり遂げお互いに支え合える支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際お見舞いに行ったり、必要時ご家族様の相談等の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、言葉や表情などから希望や意向を汲み取り入れるよう努めています。	言葉で思いや意向を表出できる方がほとんどで、難しい場合でも表情などから察している。フェイスシートとアセスメントシートを作成しているが、生活歴や趣味、嗜好などの情報は少ない。	利用者の生活歴や趣味、嗜好など、これまでの暮らしや暮らし方の希望などに関する情報を蓄積し、共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に、生活歴、日々の過ごし方など伺ったり、本人と会話の中で馴染んできたことを職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、職員からの情報、本人と会話の中で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人の情報交換をし、職員間で話し合い現状の計画に合っているか見直しを行っている。	介護計画は3～6ヵ月毎に見直し作成している。モニタリング表をもとにカンファレンスで意見交換し、計画を更新している。日々の介護記録は、介護計画を参照しながら、目標項目に沿った記載を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、心身の状態など、本人の言葉を交え記入し職員間で情報共有を図り介護計画の見直しに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様のニーズに、柔軟にサービスや支援ができるよう対応していますが、十分に取組んでいない現状。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、中学生、高校生の方がふれあ～寿の入居者を対象にクリスマスコンサートを開催してくださったり、老人クラブの皆さんと歌声喫茶に参加し地域の方とふれあい楽しんで頂けるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力医療機関へ月1回の定期受診対応を実施している。体調に変化があれば、治療方針等、主治医、家族様と適宜話し合いをの場を設けています。	利用者全員が提携医療機関に月1回定期受診している。受診内容を受診経過表に記載するとともに、詳しい内容を介護記録にも記載している。	

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理で体調の変化や経過を報告し、主治医の指示を受け早めの受診対応を行っている。必要時、24時間連絡、相談、受診できる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	専門医療機関入院時、家族様と同席し情報を頂いています。入院中も定期的に面会し状態の把握に努めています。又退院に向け適宜情報を頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合に係る指針を説明し文書で同意を得ています。治療方針や長期的に継続して治療が必要な場合は主治医、家族、事業所間で方針を話し合うことを説明しています。	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。現状の体制では事業所での看取りは難しい旨を説明しているが、将来的には看取りの実施も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急、事故対応の勉強会を行い、実践し身に付ける取り組みを実施する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定総合避難訓練を、消防署立会いで併設の他事業所と実施。災害に備え、食品、水などの備蓄品も完備している。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を同一建物の小規模多機能などと連携し行っているが、地域の方の参加は得られていない。職員の救急救命訓練は4年前の開設時に降行われていない。災害時に必要な備品類を用意している。	避難訓練に地域の方の参加が得られるよう、職員の家族なども含めて幅広い参加の呼びかけを期待したい。また、定期的な救急救命訓練の受講を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人に合わせた声掛けや言葉使いに気をつけ、人格を尊重し支援をしています。	職員は利用者との日々の会話から思いを汲み、優しく気遣いながら耳元で話しかける等、プライバシーに配慮したケアが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたいことや希望を伺いながら自己決定できるよう声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、自分の好きなことを行い過ごして頂けるよう、希望に沿った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で馴染みの美容室でパーマをかけたり、外出時、入浴時職員と一緒に洋服を選んだり、おしゃれをして頂けるよう努めています。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせ出来ることを一緒に配膳、片付けを行っています。月2回昔馴染みのおやつ作りを楽しんでいます。またメニューを変更し鍋料理など季節感を味わって頂いています。	カロリー計算されたメニューや食材は法人から配達されるが、季節の鍋料理や外食、おやつの蒸しパン、職員が作る誕生日ケーキなど、変化を持たせた内容で利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に一日の食事摂取量、水分量を把握し、食事量の低下がある方には、好みのものを提供したり、状況に合わせ栄養補助食品の提供も検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守りを行い、義歯洗浄など不足な部分の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声掛けや誘導でトイレでの排泄を行っている。	排泄表を利用して全員の排便と夜間の排尿、注意の必要な利用者は常時記録している。失敗のないよう時間ごとの誘導で、トイレでの排泄を実行するための支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、水分、乳製品の提供や、体操など運動を取り入れ予防に努めている。困難な場合は内服薬でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、入りたくない場面では、個々に合わせ無理せず時間を置いて、声掛けの工夫をしている。	日に2～3名が午後に、拒否がある場合でも時間をずらし気分を変えて入浴が出来ている。湯船をまたぐことが困難な利用者のために職員手作りの腰掛でスムーズに湯船に移動できる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、音、明かりに配慮し安眠して頂けるよう気を付けています。昼寝など個々に合わせ自由に取って頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は、間違いをなくす為一人で行こなっている個別に薬のファイルがあり把握できるようになっている。薬の副作用等気をつけることは、都度職員に伝え周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意なこと、出来そうなことを把握し、継続し楽しみや気分転換が出来るよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方は、個別に馴染みの美容室や、買い物に出掛けている。季節により天気の良い日、海、畑の様子を見ながら散歩したり、定期的に行事でドライブや外食を楽しんでいます。	ホーム前の畑や花壇に出たり、外食や受診の帰りを利用して外出を行っている。行事として花見や紅葉見物、町の祭りや神社などに行き、閉塞感のない暮らしをしている。冬期は広い施設内を散歩して歩行訓練を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より承諾を頂き、金銭はホームで立替払の対応していますが、外出時本人の希望があれば、支払いを一緒にして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話を掛けることはないが、取り次ぎや代行、手紙のやり取りが行なえるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内が広く、音が響きやすい為、不快にならないよう気を付けている。季節感を感じて頂ける飾り付けをし、落ち着いて過ごせるよう工夫をしている。	大きな複合施設の中にグループホームがあるため、廊下や共用空間も広く明るく清潔感がある。大きな貼り絵の作品やテレビがあり、どこでも好きな場所で自由に寛ぐことができる。広いキッチンからは利用者の動向が一目でわかるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士、居心地良く過ごせるようソファの配置など工夫しゆっくりくつろげるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の馴染みのある物を持参して頂いたり、写真を貼ったり落ち着いて過ごしていただけるよう工夫をしている。	ベッドの他にテレビや仏壇など馴染みのものや、家族や歌手の写真を張り、自分らしく過ごせる部屋になっている。、居室毎にエアコンがあるため、利用者の好みの室温に設定し過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋、トイレの場所が分かるように目印をつけ、安全に移動できるよう整理整頓に努めている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームすつつ

作成日：平成 28年 2月 23日

市町村受理日：平成 28年 3月 3日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議で運営、取り組み状況等、意見交換を行っていますが、家族様の参加が得られておらず、ご家族様の意見等会議に反映されていない。	参加できないご家族様に事前にテーマに関する意見を頂く。	運営推進会議のテーマを設定した計画をご家族様に送り、要望、意見を頂き運営に反映する。	6ヶ月
2	10	家族様来訪時、状況を伝え意見や要望を伺っていますが、ほとんどの家族様が遠方なため、要望、意見収集が難しい。	定期的なアンケートを検討し要望、意見等の収集を行う。	年1回アンケートを実施し、ご家族様の要望、意見等を伺い、運営向上に努める。	1年
3	35	避難訓練に、地域住民の参加が得られてない状況。又職員の救急救命訓練も開設前だけで、継続した取り組み不足。	避難訓練に近隣住民の協力が得られる取り組み。職員の救急救命訓練の受講の取り組み。	運営推進会議を通じて近隣の方の参加や、職員の家族様にも参加をお願いする。救急救命訓練を計画的に受講する。	1年
4	23	利用者様の生活歴、趣味、嗜好などの情報収集が少ない。	これまでの暮らしや、希望等の情報収集を密に行う。	家族様のお話や、本人の日常生活の中で、情報収集し職員間で共有し、本人の意向を重視した介護に努める。	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。